

全 員 協 議 会 会 議 録

（ 令 和 3 年 7 月 1 5 日 ）

- 1．青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画
（案）に係る市の対応について

む つ 市 議 会

むつ市議会全員協議会会議録

○開会の日時 令和 3 年 7 月 1 5 日（木） 午前 1 1 時 4 5 分開会
午後 零時 4 7 分閉会

○場 所 むつ市議場

○出席議員（22人）

1 番 佐 藤 武	2 番 工 藤 祥 子
3 番 杉 浦 弘 樹	4 番 東 健 而
5 番 野 中 貴 健	6 番 佐 賀 英 生
7 番 斉 藤 孝 昭	8 番 山 本 留 義
9 番 富 岡 直 哉	1 0 番 村 中 浩 明
1 1 番 鎌 田 ちよ子	1 2 番 住 吉 年 広
1 3 番 白 井 二 郎	1 4 番 濱 田 栄 子
1 5 番 佐 藤 広 政	1 6 番 富 岡 幸 夫
1 7 番 岡 崎 健 吾	1 8 番 原 田 敏 匡
1 9 番 佐々木 隆 徳	2 0 番 浅 利 竹二郎
2 1 番 佐々木 肇	2 2 番 大 瀧 次 男

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者

市 長	宮 下 宗一郎
副 市 長	川 西 伸 二
教 育 長	阿 部 謙 一
公 営 企 業 管 理 者	村 田 尚
総 務 部 長	吉 田 真
総 務 部 理 事 市 長 公 室 長	千代谷 賀士子
企 画 政 策 部 長	松 谷 勇
財 務 部 長	吉 田 和 久
民 生 部 長	杉 澤 一 徳
福 祉 部 長	藤 島 純
健康づくり推進部 理事	
健康づくり推進部 長	中 村 智 郎

子どもみらい部長
smile kids office
にっこりっこ所長

経済部長

都市整備部長

建設技術部長

川内庁舎所長

大畑庁舎所長

脇野沢庁舎所長

会計管理者

教育部長

上下水局長 民生部理事

総務部政策推進監 総務課長

教育委員会事務局監
政策推進

教育委員会事務局副理事長
学校教育課長

総務部総務課総括主幹

企画政策部企画調整課長

企画政策部企画調整課
総括主幹

教育委員会事務局総務課長

総務部総務課主任主査

菅 原 典 子

立 花 一 雄

中 里 敬

小笠原 洋 一

木 下 尚 一 郎

伊 藤 大 治 郎

工 藤 和 彦

野 藤 賀 範

角 本 力

中 村 久

野 坂 武 史

鷺 岳 彰 丸

祐 川 達 也

葛 西 信 弘

福 山 洋 司

角 本 昌 史

工 藤 大 介

畑 中 佳 奈

○事務局出席者

事務局 長 佐 藤 孝 悦

総括主幹 櫻 田 誠

主任主査 井 田 周 作

次 長 中 野 敬 三

主 幹 堂 崎 亜 希 子

主 任 浜 端 快

(午前 11 時 45 分 開会)

○議長（大瀧次男） ただいまから全員協議会を開会いたします。

本日の全員協議会は、青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）に係る市の対応について報告を受け、質疑を行います。

それでは、市長から報告を求めます。市長。

○市長（宮下宗一郎） 令和3年7月7日、青森県教育委員会は、令和5年度から9年度までの学校規模・配置等を示す「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」を公表いたしました。

この案において、令和9年度に大湊高校とむつ工業高校を統合させ、むつ工業高校の敷地に新たに校舎を整備すると示されています。具体的には、大湊高校に設置されております総合学科を現在の4学級から3学級とし、むつ工業高校に設置されております機械、電気及び設備エネルギーの3学科3学級から、機械及び電気・エネルギーの2学科2学級とし、合わせて5学級の統合校とするものであります。

これまでの経緯につきましては、「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」の策定・推進に向けた基本的な考え方を示すものとして、「青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針」を令和2年8月5日に改訂しております。この中では、学校規模・配置の方向性として、県内各地区における中学生の進路の選択肢の確保や通学環境の配慮等、また、学校規模の方向性についても示されています。

これらを基に、第2期実施計画を策定するために、県内6地区において各3回の地区意見交換会が開催され、下北地区におきましては令和2年9月15日を皮切りに3回実施されました。委員の皆様からの意見としては、下北地区はバランスの取れた高校配置となっているといったことや、地域の高校がなくなると他地区に生徒が流出してしまうことへの懸念、また、通学への影響等について意見がありました。

令和3年3月9日には、地区意見交換会における主な意見が県教育委員会に提出され、委員の意見に基づく学校配置シミュレーションとして、「全ての学校を配置する場合」、「大湊高校とむつ工業高校を統合して新設校を配置する場合」、「田名部高校と大湊高校を統合して新設校を配置する場合」、「第3期実施計画において、むつ市内の3校を統合して新設校を配置する場合」の4案が示されております。

その後、何の説明や議論もなく、令和3年7月7日、唐突に「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）」として公表されました。下北圏域の皆様は一様に、驚きとともに、このプロセスと結果に不信感を抱い

たのではないかと感じています。

なお、現時点においても本案について、市長及び市長部局並びに市教育委員会には、県教育委員会からの公式の説明はありません。一方で下北各町村の首長及び教育委員会に対しては公式に説明があったと伺っております。

この公表を受け、翌7月8日に青森県教育委員会 和嶋延寿教育長に対し、本案の公表に至るプロセスが妥当であったのかどうか、なぜこの案が選択されたのかについて説明を求めました。その際に、子どもたちの未来についてどうデザインしていくのかといったことが示されず、将来のビジョンがないような計画には先がないこと、また、地域の子供たちの減少が見込まれるので学級、学校を減らすといった単なる数合わせをしてはいけないと強く抗議をさせていただきました。

3月に示された地域への提案は、あくまでも4つの案の提案であり、地域の意見を踏まえて今回の案を示しているかは甚だ疑問が残ります。

市といたしましては、まずむつ市民のみならず下北圏域の皆様としっかりと意見交換を行い、どのような地域を目指すのか、そのためにどんな人材を育てていく必要があるのかといったことを真剣に議論し、あるべき姿を探る必要があると認識しております。

市民及び圏域の皆様には、7月21日と8月2日に開催される地区懇談会において、それぞれのご意見を述べていただき、この地域における、将来の高等学校のあり方と地域の将来の姿を考えるきっかけにさせていただきたいと考えております。

学校は地域を支え、地域は学校を支えています。とりわけ、今回、事実上の閉校になる大湊高校と規模が縮小となるむつ工業高校は、今更、言うまでもなく地域にとってかけがえのない存在です。

本来であれば、両校の未来、これに田名部高校の未来を加えてむつ市全体の高等学校教育について地域を挙げて議論や対話を重ね成案を得ていくことこそ、子どもたちの未来を本位にした高校改革のあるべき姿であると考えています。

教育の現場は、主体的・対話的で深い学びが必要とされています。

今回の県教育委員会は、数合わせで主体性を欠き、一方的で浅はかな未来しか提示できていない案と断じざるを得ません。

私としては、市教育委員会と連携をして、本日、民意を代表する議員の皆様のご意見を伺うことを皮切りに、市内及び圏域の行政関係者、教育関係者、経済会の関係者等と主体性を持って対話を重ねていき、子どもたちの未来を重視した改革を実現してまいりたいと考えております。

子どもたちの未来は、ただ、子どもたちの手の中にあります。そしてその可能性は無限大です。その可能性の伸長と機会の平等を達成し、素晴らしい未来を提供することが私たちの役割であると考えております。

今回のプロセス軽視の案をそのまま通すことは、地域に傷をつけるだけではなく、子どもたちの未来にも大きな傷がつくと私は考えています。

議員の皆様におかれましては、まずは、本日、それぞれのその想いを述べていただきたいと存じますし、今後の市及び市教育委員会の取組に対してご理解を賜りたいと存じます。

○議長（大瀧次男） これより質疑に入ります。ただいまの報告に対し、質疑ありませんか。9番富岡直哉議員。

○9番（富岡直哉） ただいまの説明を受けまして、質疑させていただきます。

第2期実施計画案において、大湊高校とむつ工業高校の統合ということで、唐突に発表されたことについては、私自身驚きを隠せないところであり、特に母校でもある大湊高校の事実上の閉校という案であり、簡単に切り捨てられたように感じており、残念でしかないというのが率直な今の思いであります。

また、同校の卒業生などからも同様の声や存続を求める声が多数私のもとにも届いていることも事実でございます。特に「下北から甲子園」を合い言葉に、27年間にわたり大湊高校野球部の監督としてチームを導いた亡き父の強い思いもでございます。志半ばで他界して以降は、その思いをOBなど多くの関係者が一丸となり、地域の皆様の応援に支えられ、伝統が受け継がれておりますほか、陸上競技の岸本鷹幸さんをはじめとするオリンピック選手を輩出するなど、伝統校でもございます。

このようなことから、それぞれの学校において、多くの方々の努力によりつながってきた歴史や伝統があるかと思いますが、市長がおっしゃるとおり、単なる数合わせではなく、しっかりと計画の過程において向き合わなければならない重要な観点であるとは私は考えており、今回の計画案では、どの程度地域の思いが反映されているものであると評価しているのか、またなぜこの案が選択されたのかについて、和嶋教育長に対し説明を求めておりましたが、どのような回答であったのか、もう少し詳しいところまでお教えいただければと思います。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） お答えいたします。

まず、地域の意見がどのぐらい反映されていたのかということについて言わせていただければ、ほとんど反映されていない意見だというふうに言わざ

るを得ないというふうに考えております。その理由としては、意見交換会というものを過去3回実施しているということのようではありますが、この中には、当市からは前の教育長も参加しております。ただ、その中で、この案が示されて、この案について議論されたという形跡は、これはありません。したがって、この案について地域の意見が反映されているということはないと私は認識をしています。

何でこの案になったのかということについて問いかけをしておりますけれども、そのことについても特に、今の時点で何かプロセス以外のことで実質的な中身のある答えはいただいている、そういう状況でございます。

教育長から何かあれば。

○議長（大瀧次男） 教育長。

○教育長（阿部謙一） 富岡議員のお尋ねにお答えをいたします。

先ほど市長が申し上げましたように、地区意見交換会は実施されております。そして、それは昨年度3回、9月、12月、2月に行われておりますが、それぞれ、第1回、9月では2学級減となる予定であることが示されております。そして、12月は3案が並列の形で提示されております。そして、最終2月で第4案が、これは田名部高等学校さんと大湊高等学校さんを統合するという案ですけれども、これが追加された形で提案をされております。そして、3つの地区意見交換会を通しまして、皆が協議をして方向性を定める、あるいは何らかの具体的な結論に至る、そのような会議の運営ではなかったと記憶をしております。それぞれ皆さんが期待される効果や懸念される問題点について指摘をして、それが記録をされる、そのような形で運営されておりますので、委員の皆様方にしても、最終的にどのような方向性を県教委が示すかに関しては、恐らく存じ上げていなかったのではないかなと推測をしております。

そして、その後3月9日に、ホームページで4案併記の形で提示がなされました。そして、先ほど市長も申し上げましたように、7月7日に唐突に第2期実施計画案が提示をされまして、4案のうちの1つが県の方針として示されました。この案に関しましては、その地区意見交換会にご参加された委員の方々にも事前に連絡、協議、説明等はなかったように伺っております。

したがって、現状を考慮するときには、意見は確かに聞いたけれども、どの案を採用して、どのような形にするか、そのことについては一切地域の意見を聞くことなく、県教育委員会内部において進められた、そのように理解をせざるを得ず、非常に困惑し、また残念に思い、憤りも感じております。

我々が求めるものは、高等学校教育の機会の公平な提供と、子供たちが自

らの可能性を最大限伸ばすことができる場の提供です。その保障です。こうした思いを届ける機会が一切設けられなかったことは甚だ残念であり、そうした機会をこれから設けていただくように、青森県教育委員会にはこれから求めていくことになるのではないかなと考えております。

今のお尋ねに関しては、取りあえずこの内容でとどめさせていただきたいと思います。

○議長（大瀧次男） 9 番。

○9 番（富岡直哉） ご丁寧な説明、ありがとうございました。やはり地域の声が反映されていないということでありましたけれども、県では今後下北地区において2回の地区懇談会の開催を予定されておりますが、これとは別に、3高校が立地している自治体として、今後どのような形で多様な意見の吸い上げを行っていくのか、その点について伺いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 今後の私たちの意見集約の方法ですけれども、今日まずそもそも皆さんからご意見をお伺いして、少し方向性を定めていきたいというふうに考えています。少なくとも現時点で決まっているのは、あした以降、下北の町村長あるいは教育長のところにお伺いをして意見聴取をしていくということです。その中で私たちの、こういったところに結論を求めていくのかということについては議論を深めていきたいと、このように考えてございます。

○議長（大瀧次男） 9 番。

○9 番（富岡直哉） ありがとうございました。本年10月が第2期実施計画の策定予定となっておりますが、多くの方が納得するような形と、結果となるよう、またこの地域に住む子供たちが目標を見失うことのないよう、しっかりととしたプロセスの下で進んでいくよう強く願うところでありますが、最後に市として、様々な地域の声を踏まえ、今後どのような形で県教育委員会に伝えていくのかお伺いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） そもそもこの説明のプロセスといいますか、このやり方というものがふさわしいかどうかというところから問いかけていきたいと思ひますし、また人口が減少して、どういう高等教育、高等教育というか、高等学校の教育があるべきかということについては、様々な方々からご意見をお伺いして、しっかりととした案を私たちとしても出していきたい、このように考えてございます。

○議長（大瀧次男） これで、富岡直哉議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。17番岡崎健吾議員。

○17番（岡崎健吾） 先ほど議長のほうからは質疑ということで言われたのですが、市長のほうからもその思いを述べてほしいということでもありますので、大湊高校のOBの一人として、その思いを述べさせていただきます。

これまで記者会見等で市長や教育長の意見をお聞きして、全くそのとおりだなという思いをしています。そこで、宮下市長の行動力、そして対応力の速さについては、本当に頭の下がる思いであります。この計画案が公表された翌日、市長は直ちに県教育長と面会をされておりますが、その際に県教育長は、この案がこのまま成案になることを前提としているものではなく、意見を一つ一つ丁寧に検討していくと発言した報道がありました。果たしてそうなのでしょうか。その割には、むつ地区でこれから2回の懇談会が予定されておりますが、この2回の懇談会をもって丁寧に検討した結果と、そう言えるのか疑問に思っているところであります。

県教育委員会は、今回の統合するための理由として、キャリア教育を充実させるためとしておりますが、現状のままでなぜそれができないのか。もしできないとすれば、私は県教育委員会の指導力そのものが問われるのではないかと考えております。

これからは、先ほど市長が言われましたとおり、むつ市民だけではなく、下北地域住民の方々と協力をしながら、この計画の白紙撤回に向けて皆さんとともに行動してまいりたい、そう考えています。そして、8月2日に開催される地区懇談会にもぜひ出席して、地区の代表として意見を申し述べたいと思っているところであります。

以上です。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） お答えいたします。

懇談会の参加ということで、本当にありがとうございます。丁寧にやっていくと言いつつも、丁寧さに欠けると明らかなのが、民意ということでいけば、市長、それから議会というのが民意を集約し代表する場面ということだと思っております。そこに一切何も説明なしに物事を進めているということ自体が、これはもう丁寧さを欠いているプロセスだと言わざるを得ないというふうに思いますし、ここで声を上げなければ当たり前のように決まってしまうというふうに私は考えておりますので、ぜひご協力よろしく願いいたします。ありがとうございました。

○議長（大瀧次男） これで、岡崎健吾議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。12番住吉年広議員。

○12番（住吉年広） 私の方から、2点質疑させていただきます。

青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画（案）の概要が示されました。本年2月に実施計画案が出され、今月21日と8月2日に2回の懇談会が開催される予定となっておりますが、本来であればもっと早い段階で懇談会を開催し、意見を聞くべきであると思います。

第2期実施計画を10月に策定する中で、市長及び市長部局並びに市教育委員会に何ら公式の説明もなしに、この懇談会自体、何の意味があるのでしょうか。地域から意見を聞くこと自体は大切です。しかし、その時期とプロセスが問題です。まずは、市に対しても子供たちの将来のあるべきビジョンを示して、課題等を議論し、その方向性が定まった上で地域の意見を聞くべきだと思います。このプロセスを無視した2か月間で出た地域の意見、課題等が策定に反映されるか甚だ疑問に感じます。あくまでも形式上の開催するものとして受け止められないようにと思いますが、市としてのご見解を伺います。

2点目としては、青森県ではこれまで総合学科と工業科の統合事例がない中で、単位制の学校と学年制の学校が一緒になることの支障があると危惧しておりますが、そのご見解を伺います。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 2点目については、教育長から答弁をしていただきます。

1点目の今回の懇談会というところで意見が反映されるかということですが、私自身は本当に形だけなのではないかというふうに思っているのです。というのも、これを聞いたら皆さん本当に怒ると思うのですが、私たち、実はこの発表が7月7日でした。私、この話を知ったのが実は7月5日です。これはなぜ知ったかということはさておき、5日に知りました。7日に公表だということを知っていたので、県の教育委員会に、市長部局からですよ、市長公室からですよ、問合せをしました。「結局どういうふうな案になるのですか」。そうしたら彼ら何て言ったと思いますか。教育委員会に聞きに来てくれと言ったのです。現場に聞きに来てくれ。それはさすがに今からの時間帯ではできないからと言ったら、次何て言ったと思いますか。報道を見てくれと言ったのです。そういうふうなやり方をしている。

さらに、結局次の日に教育長さんのところに行って、青森市長さんと一緒に行って、いろいろお話しさせていただいて、その後、説明に来るのですかと言ったら、それはまだ来ていないと。それはさすがに形式的にでも説明来なければ駄目ですよという話をして、やっと今日来るという話になった。とんでもない話です。そういうことを手続としてしている人たちが懇談会を

やって、形だけやって聞いたというふうにして終わるだけだと思います。だからこそ声を上げなければいけない。私はそのように考えています。

2点目については教育長からお願いします。

○議長（大瀧次男） 教育長。

○教育長（阿部謙一） ご質問についてお答えを申し上げます。

単位制である総合学科の学校と学年制である工業学科の学校、この統合に関してでは問題が生ずるのではないかというご指摘ですけれども、一般論として、やはり大きな混乱等が生ずるものと推測をしております。しかしながら、現状に関しては、詳細を全く説明を受けておりません。先ほど来申し上げておりますように、ホームページを含めまして、第2期実施計画は公表されております。しかしながら、今住吉議員がご指摘いただいたような大事なところの詳細に関しては、一切説明を受ける機会がなく本日に至っております。これは大きな問題であり、子供たちがしっかり頑張ることができる場を保障するために、こうした詳細こそ大事であり、それが説明なされるべきであると考えております。

繰り返しになりますが、一般論としてはいろいろな問題が生ずることと思いますが、現実論としては詳細に関して一切説明がない状況であれば回答することはできないと申し上げるしかない現状にあります。

以上です。

○議長（大瀧次男） 12番。

○12番（住吉年広） 今宮下市長の答弁でいただいたように、本当に県の行動に対しては怒りを感じ得ません。今後、私たちもむつ市の子供たちの未来のために、しっかり議論して進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○議長（大瀧次男） これで、住吉年広議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。15番佐藤広政議員。

○15番（佐藤広政） 平成26年度、平成27年度、青森県立高等学校将来構想検討会議という、この前身の会議の委員をやらせていただいた経緯をもちまして、私のほうで質問させていただきたいと思います。

この会議の中でもずっとお話をさせていただいたのが、下北地域は他の県内の地域とは違うのだと。地の負があり、この経済圏の中では他の青森、八戸、弘前市とは違う、またその3校がしっかりとバランスが取れているという話をずっと1年半の間お話をさせていただいたのにもかかわらず、このような結果になり、そしてまたこのような乱暴な取決めをしてくるという事態が、私にしてみれば、下北の子供たちをばかにしている、ないがしろにして

る、そのような考えしかございません。

また、校舎を建設するから、これを受け入れろというようなふうに聞こえる2校統合で新しい校舎を建設するというような、このようなことが、教育という立場の人間が話をするべきではないと思います。下北地域でしっかりと学んで、しっかりと巣立っていく子供たちのためには、上から押しつけられるような話ではなく、地域、そして経済界、社会の皆さん、そしてPTA、父兄の方々がしっかりと話をした上で決めていくべきであると私は考えております。

去る3月9日に地区懇談会3回を開催したということを、先ほどから市長からの答弁で様々、全然聞いていないというお話がありました。事実そのとおりだと、怒られるかもしれませんが、県教委自体は、私たちの話などは聞く耳は持たないで、このまま通していこうという思いがあるのではないかと、私は憤りを禁じ得ません。

そこで、県教委の話をして市の方ではお話はできないと思いますが、ただ先ほどから話が出ていますように、10月で決定というこの短い間に、市長のほうからのご答弁いただきましたが、市町村長との意見交換が決まっておるというお話ですが、やはりしっかりとした形で、限られた時間の中で市の動き、行動はどのようにしていくつもりなのか、現在の時点での詳細を、お知らせできる範囲で結構でございますので、お願いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） お答えいたします。

7月8日に私が驚いたのは、1日で青森市が要望をつくって、もう既に要望書を渡しているということには驚きました。恐らく相当前から情報をつかんでいたのではないかというふうに思いますが、私たちとして、まず7日の時点で、2日前に知っていましたけれども、あきれてどうしようかという中で7日を迎え8日を迎えていますので、なかなかそういう事態になっていません。

ですから、これからの方針ということのスケジュールでいくと、やはり要望という形で、何らかの意見集約をしたものを持っていく必要があるのであろうというふうに思っています。それはここでの議論ももちろん、議会での議論も踏まえ、さらには議長とよく相談し、議会としての意見も集約してもらい、また関係町村の意見も集約してもらい、様々な教育関係者の意見も集約してもらったものを要望としてお届けするということは大切なことだと思っておりますので、まずはそれに向けて取り組んでいきたいと、このように考えてございます。また、その時期については、当然10月より前にはさせて

いただくことになろうかと存じます。

○議長（大瀧次男） 15番。

○15番（佐藤広政） ありがとうございます。とにかくスピード感を持った形で、しっかりとした形のものを持っていかなければこのまま、先ほどから市長がお話をされていますように、流されて決定という流れに持っていかうとしているのが県教委の考え方ではないかと思います。

7月21日、8月2日と、田名部地区、大湊地区という形での意見交換会がごございます。これは、正直私にしてみれば、第1回、第2回ではなくて、第1回だけなのです、意見交換は。大湊地区での1回と田名部地区での1回としか考えようがありません。例えばここで今質問してもどうしようもないことなのではございますが、7月21日に出た意見を含めた形で8月2日に発表するのかといたら、そうではないと思います。同じような内容で同じようにして意見交換会を開いて、やりましたという形のていを取るのみだけではないのかなと思っております。

このような地域の現状を全く踏まえない、意見を聞かないようなものを押しつけられるということ自体をしっかりとした形で断固反対をしながら、そして私たちの意見、そして父兄、子供たちの夢をしっかり支えられるような議会でなければならないと思っておりますし、また大人でなければならないと思っております。そのためにも、ぜひとも市長のその思いをしっかりと皆さんで受けながら、そして父兄の皆さんの意見を聞きながら、子供たちのためにやっていける。

先ほどお話がありましたように、市内及び行政関係者、教育関係者、経済関係者と主体性を持って対話を重ねるというふうにごございました。ただ、まだ日程等は決まっておらないというお話でしたが、ある程度学校関係でのお話というものもできるのではないかなと思っておりますが、その点はどのようにこれから考えていくのかということをお伝え願えませんでしょうか。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 今のお話を聞いていて、やはり大人でなければいけないというのはまさにそのとおりでありまして、私たちは子供たちの未来に責任があります。無責任なやり方、それから無責任な案に甘んじて動ずることというのは、甘んじて受け入れるということは、これはできないわけです。ですから、しっかりとした形で意見を言うということだと思っています。

ただ、段階が多分たくさんあって、要望書を出すまでに本当にいろんな人たちの意見を集約できるかということ、なかなか難しい部分もあると。ですから、当面今の案については、もう少し考えてくれと、ちゃんと意見集約がで

きる段階にまで少し待ってくれという要望になるのか、あるいは本当に私たちも案をつくれて、要望になるのかということは、まだちょっと今の時点では申し上げづらい環境にありますし、まさに私としては、今日の議会の皆様の意見というものをまずしっかりと踏まえて、次の作戦というか、戦略を立てていきたいと、このように考えてございます。

○議長（大瀧次男） 15番。

○15番（佐藤広政） ありがとうございます。ぜひともしっかりと私たちの思いを子供たちの未来につなげられるための形を取っていただければと思います。

これで終わります。

○議長（大瀧次男） これで、佐藤広政議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。11番鎌田ちよ子議員。

○11番（鎌田ちよ子） 今月7日に県教育委員会より公表された第2期実施計画案について、私は納得ができません。事実上の閉校となる大湊高校は、私にとっても母校でございます。創立より73年の歴史を刻み、長年にわたって子供たちを育み、地域コミュニティーの拠点としての役割を担ってまいりました。子供はむつ市の宝です。全ての子供たちに行き届いた教育を受けさせる権利を最大限に保障するのが教育委員会としての役割とっております。先ほど教育長からもそのようなお話を伺いました。地域の学校、高校は、なくしてしまえば元には絶対戻りません。地域コミュニティーとしての拠点を失うことを見過ごすことはできません。

昨年9月15日から3回にわたり実施されました地区委員の交換会におきましても、委員の皆様からの意見として、当市はバランスの取れた高校の配置となっていることを挙げています。大湊高校、むつ工業高校、田名部高校は、地域コミュニティーとしての拠点も担っていると思っております。バランスの取れた高校の配置がまちづくりに大きくこれまで寄与してきたと考えます。

さらに、むつ下北、当市は他市に比べ、公共交通におきましてリスクを背負っております。子供たちの通学には経済的負担と通学時間に制限があります。旧市内に3校の存在は、まちづくりとリンクさせ、またこの経済的通学時間の制限とも重ね合わせて、絶対守らなければならないと考えております。市長のご所見をお伺いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） お答えいたします。

鎌田議員のおっしゃるとおりでありまして、私は会見でも、8日のぶら下

がりでも、ぶら下がりというか、記者に囲まれたときに申し上げたのですが、今回の案こそ、地域とか学校の伝統や歴史を軽視していると言わざるを得ないというふうに思っています。学校は地域を支えていますし、また地域も学校を支えているということだと思っています。そうした歴史の積み重ねが今の3校にはあるわけでありまして、その実績とか、そういうものを簡単に考えているなというふうに思います。先ほど富岡直哉議員からもありましたけれども、簡単に切り捨てられたというようなことも当然皆様は思うのではないかとこのように考えております。

○議長（大瀧次男） 11番。

○11番（鎌田ちよ子） それと、私たちの悲願であった4年制大学の誘致、今年度むつ下北未来創生キャンパスの整備工事がうれしいことに始まり、子供たちを含めPTAの方、また市民も待ちに待った工事でございます。これまで学びたくても諦めた子供たちがどれほどいたのでしょうか。うれしいこのスタートのときに、今回のことは本当に残念でなりません。むつ下北の未来と子供たちの未来は、私たちの行動にかかっていると思います。私たちの行動について、市長のお考えをお伺いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 要望という形でまとめるということもそうですけれども、やはり意見交換会というのは、7月と8月の2回というのは大切だと思っています。そこには当然市長部局からも教育委員会からも意見はしっかり言わせていただくということになりますので、議員の皆様におかれましても、ぜひそれぞれの思いを述べていただきたいというふうに考えています。

質問の中にありましたように、高等教育機関の誘致ということで、2年短大誘致して、それから大学を誘致して、成功して、大学と短大が立地できる。可能性が広がっているのが、今造っている未来創生キャンパスは、オンラインのシステムがすごく整うので、これからさらに誘致する可能性というのが出てくると。大学や短大が増えていって高校が減るとというのは、一体何を県教委は私たちの地域について見ているのだと、こういう思いも私はしておりますので、その辺についても、思いだけではなくて、理路整然とそういったところを語れるように、これからよく精査をして、私どもの意見を集約していきたい、このように考えてございます。

○議長（大瀧次男） 11番。

○11番（鎌田ちよ子） 事実閉校と言われている大湊高校は、進学に力を入れている普通高校と就職に力を入れている専門高校のよさを合体した総合学科の高校で、子供たちにとっては、型にはめず、個々の特性を重んじ、個性に

光を当て、伸ばす教育をこれまで重視をしまいいりました。このような学校がなくなるということは、絶対あってはなりません。皆さんにも力をいただきながら、存続に向けて動いていきたいと思いますので、皆さんのお力をよろしくお願いします。

○議長（大瀧次男） これで、鎌田ちよ子議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。5番野中貴健議員。

○5番（野中貴健） 現在くしくも夏の全国高校野球青森県予選が行われていて、おとといは母校のむつ工の応援、そして昨日は田名部高校、大湊高校の応援に行って、子供たちが非常にすばらしく頑張っている姿を私は目の前に見ました。勝って喜び、負けて悔し涙を流す子供たち、この子供たちの未来を切り離すような今の状態、そしてその頑張っているさなかにこういう問題が発生するということは、非常に残念に思っております。

先般私も、昨年ですか、意見交換会のほうに参加いたしまして、先ほど市長から答弁ありましたけれども、全くもって、私も意見を述べたのですけれども、意見が反映されたとはとても思っておりません。非常に残念です。全くこの意見交換会もしくは懇談会というのは、ただやったというていであります。そんな教育委員会の姿には本当にがっかり、残念であります。

それで、その懇談会の場においても、来月、来週、8月2日と説明会がありますけれども、その場において、青森県の教育長及び教育委員の出席がない、もしくは出席する予定がないということですので、その辺りも市長はどのように感じているかお伺いいたします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 青森県の教育、高校は青森県の管轄で、青森県の教育委員会が決めればいいのかというふうなことではないということはどう私たちは理解してもらえばいいのかということが、私にもちょっと今の時点ではよく分かりません。会話にならないような気がするということなのです。

ただ、やはり意思決定機関は、県の教育委員会の事務局ではなくて、県の教育委員会なのです、委員のいる。ですから、委員へのアプローチというのも必要だと私自身は思っていますし、またそこに正しい私たちの今のような議論が正確に伝わるような動きをしていかなければいけないというふうに思っています。ただ、そのプロセスの中でも、7月と8月の2回というのは大切だというふうにも思っていますので、そこでは私自身の見解も、直接参加するかどうかはともかくとして、お伝えをさせていただくことになろうかと思っています。驚くべきことに、そこでしか私ですら意見を言えないということになっていますので、そういう状況であると理解をしていただきたいと思います。

ます。

○議長（大瀧次男） 5 番。

○5 番（野中貴健） 私もそのとおり、市長の思ったとおりだと感じております。

そもそもですけれども、統合といいますか、この意見をする前に、そもそも青森県は他都道府県が先行して行っています全国募集に対しても、ようやくです、ようやく動き出している状況です。本当に動きが鈍い。たしか今年だったかにやっと検討しますよみたいな話になって、ほかも何年も前からやっていることにに対してやっと動き出している。それが統合ありきで話ししている。順番がめちゃくちゃだと私は感じております。そのことにに対して、市長、どのように感じておりますか。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 本当にそのとおりだと思います。つまり全国募集というふうな仮にチャレンジをむつ市でさせてもらえるとすれば、2 学級減というのを覆す可能性はあるわけです。市と県が連携してそれをやって、1 学級分あるいは1 学級プラスアルファ分を何らかの専門科や、専門科というのは専門の学科や、あるいは専門のスポーツでつくってしまえば、それは達成することができるわけです。ですから、そういう議論をすれば、仮に大湊高校にその学科、あるいはむつ工業高校に A I とか新しい新産業創造みたいなものを持ってくれば、それで学級減しなくて済むわけです。学校も存続できるわけです。

ですから、そういう議論全くなしに、ただ百何人減るから2 クラス減らさなければいけない、2 クラス減るから学校を減らさなければいけない、事実上大湊高校は閉校ですと。むつ工だって、申し訳ないですけども、どうするのか分からない、学科を再編してですね。何を学ばせるのかが分からない状況をつくるということですから、ちょっと私には理解できないというのが今の現状です。

○議長（大瀧次男） これで、野中貴健議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。20 番浅利竹二郎議員。

○20 番（浅利竹二郎） 皆さんの意見をお聞きしました。それで、何回か地区意見交換会というのが開催されているということになっております。それとパブリックコメント等の聴取も行われているということでもありますけれども、要約して、全体としてどのような意見が寄せられているのか、まとめがあったらちょっとお願いします。

○議長（大瀧次男） 教育長。

○教育長（阿部謙一） 浅利議員のお尋ねにお答えいたします。

まず、パブリックコメントですけれども、7月の8日から8月の16日まで現在開催されておまして、この件に関しては集約はありませんので、ご意見等がありましたらぜひ述べていただければ大変助かると考えております。

そして、3回の地区意見交換会の概要ですけれども、参加された委員の方々からこのような意見が述べられておりました。バランスの取れた高校配置に今現在この地区はなっている。例えば田名部高校は重点校として難関大学への進学を、大湊高校は総合学科の学校として生徒の職業選択を視野に、地域に根差した人材育成を行っている。むつ工業高校は、即戦力となる技術資格を持った生徒を育成して、地域の人材育成に大きく寄与している、そのようなご指摘がありまして、私どももそのとおりであると確信して読ませていただいております。

そして、生徒数減少等に関しましては、方法論のみが議論されていることは懸念があって、それぞれの学校の特色や魅力に関する議論をしっかりと理解をした上で進めてほしい、そのようなご意見も掲載されております。

そして、メリット等に関しては、例えば学校規模が確保されるのであれば、教員数も確保できて、子供たちに充実した指導ができるのではないかと、そういうご意見もあります。また、一方、学級数が減ぜられれば少人数規模になって、目が行き届いてきめ細やかな指導ができるのではないかと、そのようなご意見も掲載はされておりました。

今申し上げましたように、方向性を定めるということではなくて、それぞれの案件に応じて各委員の方々がご自分の所感を述べるという形になっておりますので、そのことはこの場で確認をさせていただきたいと考えております。詳細等に関しましては、そのほかにも多々ありますけれども、資料等がありますので、ご一読いただければとてもありがたいと思います。

そして、この場をお借りして1つ確認をさせていただきたいことがあります。それは対象学年です。非常に今緊急の課題だと考えております。それは、これから3か月を経ずして結論が得られる、そういう無体な状況であることに加えまして、この第2期実施計画の対象学年は、現在の中学校2年生から始まります。現在中学校2年生から小学校4年生までの5年間が対象となります。与えられた資料の中では、むつ工業高等学校の学科が1つ減らされることになっています。

したがいまして、私どもに選択権がない以上、今の中学校2年生が高校受験を迎えるときに、10月新聞発表で、学級が1つ減ります、そのような一方な発表もあり得る、そういう状況です。したがいまして、今現在学んでいる

子供たちの可能性をついばむことがないように、ぜひ皆様方のお力をお借りしたいと考えております。

以上です。

○議長（大瀧次男） 20番。

○20番（浅利竹二郎） ありがとうございます。今回の第2期計画の中で、むつ工業高校が新しく設置される、大湊高校とですけれども、統合されるということになっているようでありますけれども、下北半島全域で原子力施設が多数設置されている現状に鑑みまして、原子力エネルギーを重点とした拠点校、拠点になり得ないのかというようなことをお尋ねします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 本当に様々な可能性があって、学校というのをどうするかということについてはですね。ですから、そういうことをしっかり議論をこれからしていく環境づくりが私は大切だと思っていて、その議論する環境を遮断するのが今回の案ですので、そこはやはりそもそもの案については少し厳しく言わざるを得ないのかなと、改めてそう感じてございます。

○議長（大瀧次男） 20番。

○20番（浅利竹二郎） ありがとうございます。

それで、私の今の質疑の結論なのですけれども、大湊高校、むつ工業高校の地区統合校は、歴史、校風、伝統等が異質であり、生徒間の融和、一体感の醸成にも苦慮すると思います。

また、先ほど鎌田議員が言われましたけれども、今むつ市は短大、4年制大学を誘致すると独自の教育環境を整え、将来に向け発信しつつあるさなか、大湊高校、むつ工業高校の統合は、地域にとってマイナス要素が明らかで、容認できません。強く反対したいと思いますが、そのことについて改めて市長の考えをお伺いします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） そのとおりだと思っております。統合に反対かどうかということもそうなのですが、やっぱりプロセスが軽視されていて、いろんな人たちが考えているいろんな未来像あるいは人材育成像というものをないがしろにしている案だと断じざるを得ないと、このように考えてございます。

○議長（大瀧次男） これで、浅利竹二郎議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。6番佐賀英生議員。

○6番（佐賀英生） 待っていました。私は、実は唯一のこの統合の経験者でございまして、市長、武器やよろいはいっぱいあったほうがいいと思いますので、ぜひともタフネゴシエーターとして臨んでいただくための一つ、お話

をしたいと思うのですが、私もちょうど８年前、８年ちょっと前ですか、その辺りに経験したのですが、県は今まで、県の言った統合のやつで、ならなかったことは一つもありません。田子高校と藤崎あたりが１年か２年延びた程度ですね。それぐらいです。

そして、大畑校舎のときにありがたいことに説明会を、たしか大畑の学校なのですけども、来さまい館で２回ほどやってもらったような、大変ありがたい記憶がございました。それは私が出られない日を選んでいるようなくらいタイミングよくやっていただいたのがあります。そして、統合を決める前に県教委から、名前は言えませんが、教頭先生が１年間来て、しっかりと根回しをして、して、して、して、して、統合が決まったら１年で教育委員会に帰っていったというのがあります。そういうことをするわけですから、まずは心してかかっていたいただきたいと思います。

そのときにいろんな学部を考えました。当時は海洋学部、エネルギー学科、そういうものを考えていろいろ提案したのですが、全部駄目でしたけれども、敵は去るものひっかくもの、なかなか、なかなか、市長のほうでご存じでしょうけれども、なります。

そういうものを踏まえて、２つだけお伺いします。これからの意気込みは皆さん聞きましたので、ちょっとあれですけども、なぜ各町村にお話をし、市長だけに話が来なかったのかをまずお伺いしたいと思います。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 本当にそれは私に聞かれてもというところはあるのですが、不愉快極まりないということだけお伝えしておきます。

○議長（大瀧次男） ６番。

○６番（佐賀英生） 本当に最後にお問い合わせみたいな形になるかもしれませんが、先ほど教育長が言ったとおり、今の生徒たちは卒業するわけです。本当にこれから対象になる生徒たちを中心に、やはりそういう意見聴取がある場があったら、ぜひとも積極的にしていただきたいですし、そういう子たちの意見を拾ってください。今まで勝手に潰すだけ潰してスクールバスの金も出さない、遠いところにする、好き勝手です。大したものですよ。そこら辺も準備していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○議長（大瀧次男） これで、佐賀英生議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。７番齊藤孝昭議員。

○７番（齊藤孝昭） それぞれ反対の意見とか、要望とか、出ていましたので、そのことを踏まえながら、２点お聞きしたいと思います。

１点目は、これは青森県が決めることですから、青森県議会が当然関わっ

てくるものだというふうに思っています。幾ら地元で、佐賀議員も言っていました、どんどんお願いをしてもなかなか上には通らないと。ということは、やはり県議の地区選出の先生方とのやり取りも絶対必要になるのではないかと。さらには、そこに関係する会派または党の人たちにもお願いする場面も出てくると思いますが、そのこのところの考え方をまずお知らせください。

もう一つ、先ほど市長の答弁で代替案みたいな話をつくってもいいかなみたいな話がありましたが、県が出してくる以上の案をむつ市が出すという方法もあると思いますが、いかがでしょうか。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） お答えいたします。

まず、やはり県議の先生方というか、県議会議員の皆さんにはご協力いただきたいと思しますので、我々の要望の内容、これが固まりつつある段階で、しっかりとご協力の要請はしていきたいというふうに思っています。

また、市としての案ということで行きますと、私自身はたくさん案がありますが、またそれが別に市の成案ということはありません。これも皆さんの意見をお伺いしながら固めていくものだというふうに思っています。ここでまして私の案を言えば、また県教委と同じようなことになりますので、そういうことではなくて、これからみんなで議論をしていくことだというふうに思います。

以上です。

○議長（大瀧次男） 7 番。

○7 番（斉藤孝昭） ここで県の方針を打ち破るためには、それを上回る案を早急につくること、その方法をやはり市長は、皆さんの意見を聞きたいと言っていますので、県以上に皆さんと懇談する場面をつくって代替案を提出するというのが一番近道で、それを撤回または修正させる方法になると思いますので、ぜひ市長にはここで一番汗を流していただきたいなというふうに思います。

○議長（大瀧次男） これで、斉藤孝昭議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。1 番佐藤武議員。

○1 番（佐藤 武） 長くなって申し訳ないのですが、今回の統廃合案を聞いたときには驚いたというか、それが率直な感想です。市長ももちろん、これはおかしいという意見表明をしましたし、ここにいらっしゃる議員の皆さんも同じ思いだというふうに私は思っていますが、私自身もこれについては受け入れられないというふうに思っています。

今まで委員の皆さんが様々発言されてこられましたし、それに対して市長

も答えられましたので、私 1 点だけ。代替案を出すことというのは、これから 3 か月もないわけですから、非常に難しいことだと思っています。やはり市としての意見を県あるいは県教委にきちんと届けると。やっぱり議会も、今日は全員協議会で皆さん意思表示していますから、これをしっかり届けると。あとは、様々な団体の方々と市長が懇談されて、その意見を集約して届けるということが、先ほど言われていましたけれども、私はやっぱり市民の意見をいかに県に届けるかというのはすごく大事なことだと思っています。それがいっぱい届かないとこれを止めることはできないというふうに思っているのですが、その点について 1 点だけ市長に、どう考えているかお伺いします。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） そのとおりだと思っております、まずやっぱり意見の届け方としては、パブリックコメントでちゃんと出さなければいけないし、いけないと思いますし、それから 2 回開かれるところに具体的に行って、それで届けるということは必要だと思います、県にはですね。

そして、私たちがどういうふうな形で意見を集約していくかということについて、10月までに代替案を私たちがつくれるかどうかということについては、これは自信はないです。ただ、少なくともこの案のまあいって困るという話までは多分いけるはずだということはあると思うので、その先あるいはその途中で様々な団体からの意見ももちろん聞かせていただきたいと思いますし、市民の方々からどうやって意見を聞くかというところにまでまだ思いは至っていませんが、そうしたこともこれからしっかり考えていきたいと考えています。

○議長（大瀧次男） これで、佐藤武議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。16番富岡幸夫議員。

○16番（富岡幸夫） いろいろお話を聞いてまいりました。我々議会といたしましても、ここは黙っているわけにはいかないというような場面であります。ぜひ市長には、魂の入った代替案を早急につくられて、我々はそのことに賛同しながらも決議をするというような形を取る。反対の決議だけでは駄目なのです。前向きに将来こういうふうな形になるというようなことを市民にアピールしなければならない。下北は、青森県にこれだけの力があるというようなことをアピールしていかなければならない。そのために我々はもっともっと結集して、この場面において、時間はありませんけれども、そのように考えますけれども、市長の思いといいますか、ご意見はいかがでしょうか。

○議長（大瀧次男） 市長。

○市長（宮下宗一郎） 何か予想外に背中を押されて、ちょっとつまずきそうな雰囲気もありますけれども、本当に大事なことは、この場面で大事なことは、私自身の考えでリーダーシップみたいな形でどんと進むということではないと思うのです。そうではなくて、やっぱりまずはプロセスが大事で、みんなの意見を聞いていくということからだと思っているので、それに時間はかかると。ですから、少なくとも何か、８月で意見閉じて10月で決めるということではないプロセスは必要だよということは訴えていかなければいけないということだと思うのです。

その先にやっぱり、今齊藤議員からも富岡議員からもあったように、私たちの案というのは、やっぱり出さないといけない場面がもしかしたらあるかもしれません。でも、そのときにもまたやはりそこは、議論や対話を尽くして成案にしていくプロセスが県教委のやり方との関係でも私たちには必要だというふうに考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

○議長（大瀧次男） 16番。

○16番（富岡幸夫） 本当に魂のない形だけの数合わせ、そういうふうなことを押しつけられるという現状だろうと思っています。ただ、我々も人口減少に関して、子供たちがなかなか数が減っていて、その責任はあるわけです。そういうふうなことをもっともっと幅広く、深く、そして将来的にこの地域のことを考えるということで、会津魂といいますか、会津日新館の思いを、この辺の方々にも、まだまだいっぱい持っている方、いらっしゃいます。教育の根源でありますので、ぜひ頑張っていただきたいなと思います。

○議長（大瀧次男） これで、富岡幸夫議員の質疑を終わります。

ほかに質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○議長（大瀧次男） 質疑なしと認めます。

以上で、本日の報告に対する質疑を終わります。

お諮りいたします。本日の全員協議会は、これで閉会したいと思います。これにご異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（大瀧次男） ご異議なしと認めます。よって、本日の全員協議会はこれで閉会いたします。

午後 零時47分 閉会